

	<p>「9月24日(日)はれ</p>
1606	<p>N 実りの秋。</p>
1611	<p>N 白石町ではレンコンと並ぶ特産品・玉ねぎの種まきの季節がやってきました。</p>
1628	<p>(NO)</p> <p>N この白い粒が、春には玉ねぎになるのです。機械の規格に合わせるために白くコーティングして種を大きくしているんだとか。ここで行われていたのは今から10年ほど前に導入されたという近代的な農法。土・種・土というサンドウィッチを機械で作ります。</p>
1654	<p>N そのサンドウィッチのポットを畑に置き、上から水を撒いて苗を育てるのです。</p>
1704	<p>N 一方、同じ白石町でも昔ながらの方法で玉ねぎを育てる方がいます。</p>
1714	<p>N こちらはコーティングされていない、そのままの黒い種。畑に直<small>じか</small>に蒔<small>ま</small>いていきます。</p>
	<p>(NO) 「まだアナログですからデジタル化になっておりません」</p>
	<p>○ 玉ねぎ栽培の仕事は何年くらい？</p> <p>(NO) 昭和30年代から50何年くらいになる</p>

○ 玉ねぎ栽培の一番難しいところは？

(N) 「苗作りから失敗しないこと

種まきから始まって収穫まで

手抜きをしていいものは無い

常にその時その時の的確な作業

気を抜かない 手抜きしない

作業は『省力』しても『省略』しない」

N 玉ねぎの収穫は来年の春です。

1855